

当行（単体ベース）の営業の概況

平成29年9月中間期の営業の概況（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

当中間期のわが国経済は、海外経済の緩やかな成長を背景とした輸出や生産活動の持ち直しによる企業収益の回復に加え、所得環境の改善を背景に個人消費も持ち直しの動きが継続したことから、緩やかな回復基調が続きました。

地元香川県におきましても、設備投資が底堅く推移するなか、企業の生産動向は緩やかに持ち直しを続けるなど、景気は緩やかな回復基調が続きました。

金融面では、東アジアにおける地政学的リスクが意識され、リスク回避の動きがみられる場面もありましたが、米国景気の着実な回復や中国などアジア地域の景気持ち直しの動きなど、海外経済の緩やかな回復が確認されたことによる世界的な株価の上昇に連られる形で、日経平均株価も20,300円台まで上昇しました。長期金利の指標となる新発10年物国債利回りは概ね0.0%台で推移し、円の対米ドル相場は期末にかけて107円台から112円台まで円安・ドル高の動きとなりました。

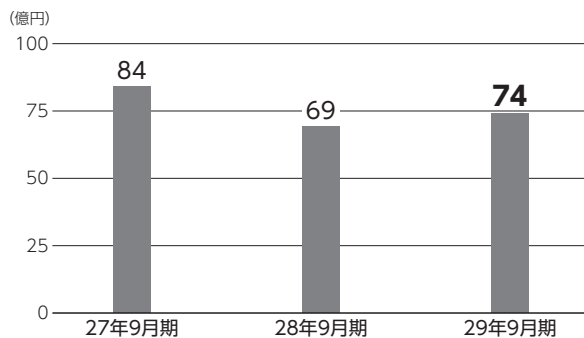
このような金融経済環境のなか、当中間期の業績は次のとおりとなりました。

コア業務純益の推移

コア業務純益は、金融派生商品収益の増加などによるその他業務利益の増加などにより、前年同期比4億49百万円増加して74億45百万円となりました。

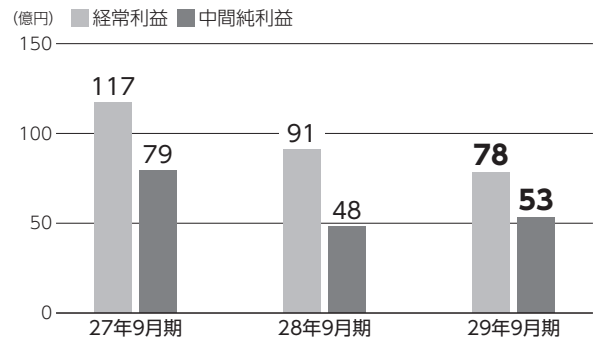
*コア業務純益とは

コア業務純益 = コア業務粗利益（資金利益 + 受取手数料など） - 経費
銀行の本来業務からの利益を表す指標。



経常利益・中間純利益の推移

経常利益は、債券関係損益の減少などにより、前年同期比12億57百万円減少して78億92百万円となりました。また、中間純利益は、前年同期比5億81百万円増加して53億96百万円となりました。

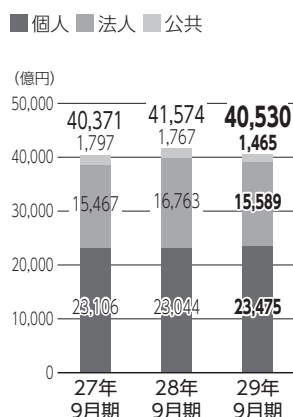


総預金・貸出金等の残高推移

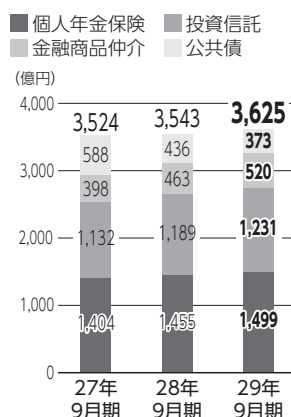
●総預金等

個人預金は増加しましたが、法人及び公共預金が減少したことにより、当中間期の総預金残高は、前年同期比1,044億93百万円減少して4兆530億1百万円となりました。また、預り資産残高は、公共債は減少しましたが、投資信託、個人年金保険、金融商品仲介の増加により、前年同期比81億27百万円増加し、3,625億10百万円となりました。

総預金（預金 + 譲渡性預金）



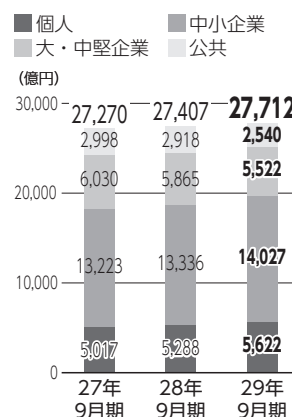
預り資産



●貸出金

大・中堅企業向け及び公共向け貸出金は減少しましたが、中小企業及び個人向け貸出金が増加したことにより、当中間期の貸出金残高は、前年同期比304億63百万円増加して2兆7,712億54百万円となりました。また、住宅ローンを積極的に取り組んでまいりました結果、当中間期の住宅ローンの残高は、前年同期比312億25百万円増加し、5,262億70百万円となりました。

貸出金



住宅ローン

